

— 誠実と信頼そして顧客満足 —

## 株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ



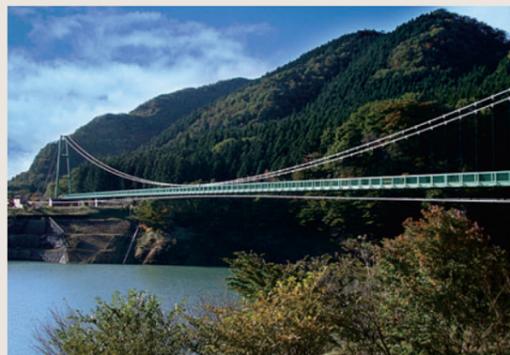
所在地：〒321-0934 栃木県宇都宮市築瀬2丁目13番26号  
 TEL : 028-635-3132  
 FAX : 028-635-3019  
 URL : http://www.fukisawa.co.jp/  
 従業員：44名  
 設立：昭和47年6月26日  
 代表者：代表取締役 小池健彦  
 資本金：4,000万円  
 資格者：技術士13名、コンクリート診断士2名  
 橋梁点検技術研修終了者5名



本社社屋



アドベンチャーブリッジ(栃木県宇都宮市)



もみじ谷大吊橋(栃木県那須塩原市)



大日橋(栃木県日光市)



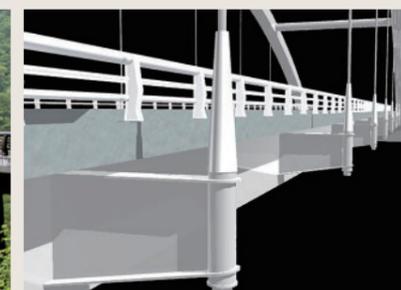
烏山大橋(栃木県那須烏山市)



りんどう大橋(栃木県那須塩原市)



瀬戸権現大橋(栃木県日光市)



CGによるデザイン提案



現場見学会(東京ゲートブリッジ)



### 経営

当社は昭和47年の創業以来、一貫して社会資本である道路・橋梁・河川・下水道などの設計を、諸官庁からご依頼を受け業務を行っております。良質な社会資本を整備するための下支えとして、以下に示す品質方針および品質目標を定めています。

#### <品質方針>

「誠実と信頼」をモットーに、発注者のよきパートナーとして、品質の継続的改善を進め、社会に貢献する。

#### <品質目標>

1. 各契約業務毎の目的および設計内容を十分理解し、発注者の意向に沿った提案を行い、より正確で、より質の高い成果品を提供する。
2. 発注者が満足する成果品を提供するため、組織として技術の研鑽に励み、従業員の能力開発に努める。

この品質目標に基づき、社内における業務の改善策を継続的に進めています。具体的には社内および発注者からの技術的情報を「電子回覧板」に載せ、随

時会社全体で共有できるようにしているほか、月に一度の係長以下で構成する「社内改善会議」、課長以上で構成される「工程会議」の場で業務の問題点などを話し合い、良質な製品を提供するような努力を重ねています。

当社の業務は、まさに発注者の信頼を得てはじめて成り立つものであり、常に発注者の先には国民がいることを意識して、良質な社会資本のための提案を心がけています。

また、社会貢献の一環としてサッカーJ2チーム「栃木SC」のスポンサー企業にも参加し、栃木県のPRの一助としています。

### 技術と実績

常に新技術・新材料を意識し、良いものは国内・国外を問わず、積極的に取り入れています。

歩道吊橋の実績は、完成当時、無補剛吊橋として国内最大支間長(L=320m)の「もみじ谷大吊橋」をはじめ、片主塔によるダブルワーレントラスの「七ツ岩吊橋」、斜張ケーブルを併用した「山ゆりの吊橋」があり

ます。また、歩道吊橋の多くは鋼製のものですが、プレキャストPC床版を用い、耐風索を省略した「大日橋」「東雲さくら橋」などもあります。

この他にも、鋼製主桁を有する吊床版橋「アドベンチャーブリッジ」、主桁に鋼管を用い縦置き床版とした歩道橋など、新形式橋梁も設計しています。

道路橋では、4径間連続とした1主塔の鋼斜張橋「烏山大橋」、RC床版を有する鋼V脚ラーメン橋では国内最大支間となる「りんどう大橋」、吊材にケーブルを使用した下路式鋼ローゼ橋「下塩原2号橋」、上路式鋼アーチ橋「瀬戸権現大橋」、鋼ポータルラーメン橋「砂子田橋」など多くの実績があります。

このように、新しい技術を取り入れて、“将来にわたって維持管理したくなる橋梁”の提案を常に心がけています。

近年は新設構造物だけでなく、アセットマネジメントにも取り組み、点検・補修・補強業務にも力を入れております。昨年は200橋を超える橋梁点検業務を行い、社内のノウハウも整ってきました。

また、橋梁以外にも道路・河川・都市計画・上下水

道設計も行っており、道路設計では、バーチャルリアリティにより、分かり易い資料の提供や交通マイクロシミュレーションソフトを用いた交通需要予測も行っています。

### 常に心がけていること

地元に着目したコンサルタントであり、設計、施工、完成後の維持管理まで、常に自分達が設計に携わった構造物が身近にあり、近くを通ったときは、立ち止まり、構造物の健康状態を見守るように社員一人一人が心がけております。

### 技術の研鑽

社員個々のスキル向上のため、各種資格取得を奨励し、特に技術士資格を目指す社員に対しては、経費を補助するなど良質な成果品を提供できる環境の醸成にも配慮しています。また、鋼橋技術研究会(新橋梁形式部会・複合構造部会)や、土木学会関東支部へも積極的に参画し、技術の研鑽に日々励んでいます。  
 (文：技術第一部担当 高橋昌宏)